

三井E&S環境エンジニアリング、
導入後わずか3.5か月で70個のBotを開発
現場の属人的な業務を楽にする、
文房具のように使えるRPA



組織の概要

三井E&S環境エンジニアリング株式会社では、都市ごみ処理施設や下水処理施設といった環境保全施設の運転管理、維持管理を行っています。地域に適した資源循環技術・エネルギー活用技術を提案する環境エンジニアリング事業や施設建設から運転管理まで幅広い機能を備えたトータルエンジニアリング力を提供するオペレーション&メンテナンス事業を展開しています。

課題 方針として掲げられていたRPA、具体的に進めるための役割を担う

人材不足が叫ばれる企業では、働き方改革の名のもと、ITを活用して業務の省力化、効率化に取り組んでいます。環境保全施設の運転管理、維持管理を手掛けている三井E&S環境エンジニアリング株式会社においても、AIやIoT、RPAといった新たなテクノロジーを活用して、新たな時代に適用できる環境づくりに取り組む機運が高まっていました。

そんな会社におけるRPA導入プロジェクトは、「草の根」的に始まりました。親会社でRPAを推進し、RPAの効果を十分に理解していた川村氏が上層部に提案したRPAプロジェクトが承認されたことをきっかけに、スモールスタートで検討導入を始めることになりました。

ソリューション

使い勝手の良さを評価、ポットソン開催で現場への理解を深める

複数のRPAツールを検討した上で、同社がAutomation AnywhereをRPAツールとして選択したのは、その使い勝手の良さが決め手でした。検討した製品のなかには、1つ動作させるために多くの設定が必要なツールもあれば、複数の画面を駆使して作り込まなければいけないツールもあり、慣れていない現場には不向きだと考えたのです。特に同社は、大きなBotや高度なBotを作成しようとしていたわけではなく、ちょっとした作業をさっとBotにしてさっさと使うことが自分達に合っていると考えました。ITシステムが決して得意ではない人も含めた多くの人を使う文房具のように展開するため、シンプルで初心者にも優しいAutomation Anywhereが選択されました。

当時はRPA導入についての方向性も定まっていなかったため、社内向けにプレゼンテーションを実施。RPAの動作を具体的に示してその効能を紹介したうえで、各部門からの参加者に対して業務の棚卸を提案したところ、30ほどの課題が集まりました。そこでAutomation Anywhereに相談し、PoCよりも集中的な開発研修

メリット

3.5か月で **70** 以上

Bot開発数

3.5か月で **180** 時間

業務削減効果

自動化されたプロセス

- ・メールに添付されたExcelの情報を集計
- ・経理システム内の情報を抜き出して所定のシートに転記
- ・基幹システム内で管理されている工事番号を抜き出して工事関連の別のシステムに登録
- ・工事予定表から提出物期日を確認したうえで、メールにて提出物を催促
- ・マスターファイルへの転記
- ・更新データのチェック
- ・フォルダの作成、名前変更、抽出
- ・経費支払、出張精算システムへのデータ記入

業界

- ・エンジニアリング業界

「小さなBotを動作させるためにも複雑な設定が必要になるようなツールでは、社内に広まらないと考えました。Automation Anywhereであれば、初心者でも取り掛かりやすく、皆が手軽にBotを作成できます。文房具のように使ってもらえることを目指しています」



一 三井E&S環境エンジニアリング株式会社
環境施設事業本部 第2整備部 R2課 主管
川村 知格 氏

の場として「ポッタソン」を開催し、現場のメンバーにその良さを体験してもらうことになりました。

また、システムに明るくない現場の社員にとっては、自分が日常的に行っている業務を業務フローとして整理し、Botに作りこむ作業は難易度が高いこともあります。そこで、会議室にて個別にホワイトボードを使って絵をかきながらヒアリングを行い、その場で棚卸した業務をRPAに落とし込む「セッション」という形式での支援を継続的に行うことで、現場への定着に向けた工夫を行いました。

詳細

わずか3.5ヶ月で70ほどのBotと200を超えるメタボットを作成、多くの部署で活用が進む

RPAを導入してから、わずか3.5か月ほどで70ものBotが作成されました。経理課をはじめ、企画部や人事部などの共通部門の他に、事業部など多くの部門にまでRPAの輪が広がっています。簡単な機能に特化した再利用可能な部品（メタボット）を200以上準備したことで、現場の業務改善に必要な、小さなBotを量産することに成功しています。

Excelを使った業務報告が多いという同社においては、「マスターファイルへの貼り付けや集計作業」にRPAが適用されることが典型的です。社員から収集した情報を集計するなどの作業のほか、経理システム内のデータの集計や、基幹システム間のデータの連携など、たくさんの業務にBotが活用されています。

結果 3.5か月ほどの間にトータルで180時間ほどの作業時間削減に寄与

RPAを導入したことで、わずか3.5か月ほどの間にトータルで180時間ほどの作業時間が削減されました。手作業からの脱却により、作業品質が向上する、人的チェックのストレスから解放されるなど、精神的な面でもメリットが生まれていることを同社は高く評価します。また業務を自動化することで、業務の棚卸や社員の意識改革が進んだことも大きな効果に挙げています。

これまで実現できなかった新たな業務が生み出されている点も見逃せません。例えば工事における報告書提出の催促を、以前ならExcelで作られた工事予定表の中の報告書名称とその提出期日を見ながら電話で行っていたところ、提出期日がRPAで判断しやすいよう工事予定表を作り直し、今では工事予定表上の予定をBotが判断し、事前に納期に関するお知らせメールを送ることができるようになりました。これまでやりたくてもできていなかったことが、RPAによって新たな業務として創発された例です。

今後 全社展開を進めながら、棚卸済みの業務をRPAにて自動化していく

今後は、現在本社での利用が中心のRPAを全社的に展開していきながら、すでに業務の棚卸を実施したものを少しずつRPA化していく計画です。また、現在Excelのマクロで実施している業務をRPAによって自動化していくことも計画しています。同社の推進チームでは、現場で日々の業務に忙殺されている人たちが、RPAという武器を得て自身の業務を効率化できるようにするために、懸命な支援を続けています。

Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 www.facebook.com/AutomationAnywhJP

 contact_japan@automationanywhere.com

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。

2020年11月バージョン1

「Excelのマクロであれば、Excelの中でしかできなかったことが、RPAであればソフトを超えて作業ができる。これは便利だと感じたのです」



— 三井E&S環境エンジニアリング株式会社
経営企画部 経理課 主任
川口 千恵子 氏

「基幹システムからのデータ抜き出し、転記作業をRPAが勝手に進めてくれる。その間は見守る必要なく別の作業を進めることができ助かっています」



— 三井E&S環境エンジニアリング株式会社
経営企画部 経理課
坂井 裕紀 氏